適性検査Ⅰ

注　意

1　問題は二ページにわたって印刷してあります。
2　検査時間は五十分で、終わりは午前九時四十分です。
3　声を出して読んではいけません。
4　問題用紙と解答用紙を提出しなさい。
5　受験番号と氏名を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

受験番号	受験者氏名

目黒日本大学中学校

次の文章A・文章Bを読んで、あとの問題に答えなさい。

文章A

世界にはさまざまな多様な文化がありますが、その価値はそれぞれの文化の中に宿っている。一〇億人を超(こ)える中国人の文化であれ、太平洋地域に住む三〇〇〇人から一万人ぐらいしかいないようなひとつの民族の文化であれ、文化という点では同じく存在するものであり、それぞれの価値があるのだということを、文化相対主義は主張しました。

文章B

この「お客様は神様」の背後にある考えには人間に上下関係があることを*所与のこととして、客となったものはサービスを与えるものより上の立場にあるという考えであろう。ところが、アメリカなどでは、文化的建前は「人間は平等」となる。したがって、客であろうが、上司であろうが、部下であろうが、基本的な建前としてはお互いにあたかも上下関係がないふりをするのがよいことになる。(中略)海外に行って、客としての*恭しい処遇を受けないといって怒っているようでは、自文化中心主義の罠にはまっていることになる。

(久米昭元・長谷川典子「ケースで学ぶ異文化コミュニケーション 誤解・失敗・すれ違い」による)

〈言葉の説明〉

所与　・・・異義なく受け取られる事実

恭しい処遇・・・礼儀にかなって丁寧なあつかい

問題

右の文章A・文章Bは、ともに「異文化理解」について述べられた文章です。

解答らん①には文章Aについて筆者の言いたいことを「文化相対主義とは」という書き出しで、百字以内で分かりやすく書きましょう。解答らん②には、文章Bについて筆者の言いたいことを「自文化中心主義とは」という書き出しで、百四十字以内で分かりやすく書きましょう。(それぞれの解答らんには、あらかじめ書き出しの語句が印刷されています。)

また、この二つの文章を読んで、あなたは「異文化同士の交流」において何が重要だと考えますか。解答らん③に、あなたの考えを、自分の体験や経験などを交えながら、四百字以上、五百字以内で分かりやすく書きましょう。

(書き方のきまり)

○ 題名、名前は書かずに一行目から書き始めましょう。

○ 書き出しや、段落を変えるときは、一ます空けて書きましょう。

○ 行を変えるのは段落を変えるときだけとします。会話などを入れる場合は、行を変えてはいけません。

○ 読点↓、　や　句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一ますに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓　。」は、同じますに書きましょう。

○ 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じますに書きましょう。

○ 書き出しや、段落を変えて空いたますも字数として数えます。

○ 文章を直すときは、消しゴムで丁寧に消してから書き直しましょう。